

1 単元名 仁和寺にある法師—「徒然草」から

2 目 標

- ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。 [知識及び技能]
- ・詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 単元計画

- 第一次 古文を読み味わう …… 1時間
- 第二次 内容を捉える …… 1時間
- 第三次 古典への理解を深める …… 4時間 (本時1 / 4)

#### 4 本時の学習

(1) 題目 仁和寺にある法師—「徒然草」から [第三次中 1 時]

(2) ねらい

- ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を理解することができる。 [知識及び技能]

(3) 学習過程

学習活動と児童生徒の主な意識の流れ	時	評価 (◎) と支援 (・)
1 学習のめあてをつかむ ・「徒然草」の別の章段を読むことを伝える。 ＜「徒然草」の他の章段にはどんなことが書かれていて、そこから何がわかるか？＞	5	・各章段を読み、おもしろい部分やそこからどんなことを考えたかまとめることを伝える。
2 自分で考える ・学校司書に各章段を朗読してもらう。その後、生徒自身も本を読み、自分が「おもしろい」と思ったところはどこか、そこからどんなことを考えたか、ワークシートに書いていく。	20	・教師や学校司書の「おもしろい」と思ったところも伝える。 ・絵本や漫画、文字の多い文章など、自分に合った形式の本を選ぶようにする。 ・書けない生徒のために、本に書いてある言葉やキーワードを参考にしたり、真似したりして書くよう声をかけ、書けるようにする。
3 自分の考えを伝え合う ・ペアになり、自分の「おもしろい」と思ったところや、そこからわかったことを伝える。	10	
4 みんなで考えを深める ・同じ章段を選んだ者同士で、「おもしろい」と思ったところや、そこからわかったことを伝え合う。	10	・交流を通して出てきた意見を比較してみるよう声をかける。
5 「わかった」「できた」をまとめる 「木登り名人」は、それまで気をつけて木を降りていた主人公が最後落ちてしまうことが書かれていて、そこがおもしろい。このことから、何事も油断は禁物だということがわかった。また、師匠のように、教えてくれる人がいることは大切だということもわかった。	5	◎章段を読み、書かれていることやわかったことを、自分の言葉でまとめることができる。 (ワークシート) [知識・技能]

(4) 参観の視点に関する工夫点

- ①本に書いてある言葉やペア・グループ活動を通して出てきた意見を参考にし、生徒が自分の言葉でまとめを書けるようにする。